

協働による「多目的トイレ発検索アプリ」開発

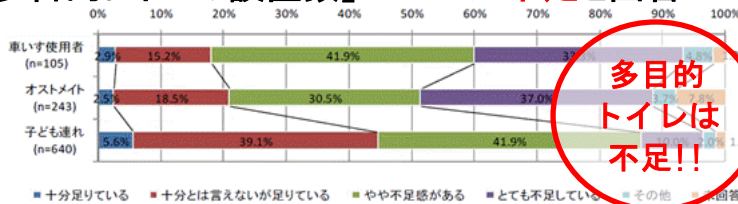
多目的トイレ発検索作成協議会協議

車椅子利用者にとって、トイレの情報は非常に重要です。外出の際、まず最初に心配するのが多目的トイレの有無です。また障がい者にとって身体の制約は様々で、必ずしも、そのトイレを自分が使えるとは限りません。自分が使えるかどうかを判断するための情報も必要です。

公共施設、商業施設、観光地等、実は各所に多目的トイレは存在します。それら多目的トイレの情報を整備し、いつでも検索することができれば「誰もが住みやすい、誰もが旅行しやすいまち宇部」が実現できると考えます。

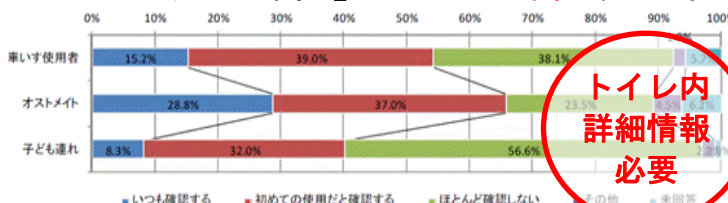
●世間の多目的トイレの状況は？

【多目的トイレの設置数】⇒75%が不足と回答



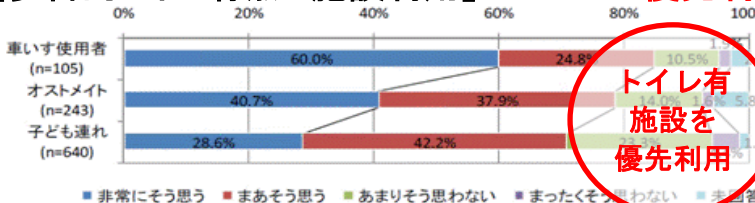
多目的
トイレは
不足!!

【トイレレイアウトの確認】⇒60%が確認すると回答



トイレ内
詳細情報
必要

【多目的トイレ有無と施設利用】⇒80%が優先利用



トイレ有
施設を
優先利用

※グラフ引用:国土交通省「多機能トイレへの利用集中の実態把握と今後の方向性について」

多目的トイレが検索できる
アプリを作ろう

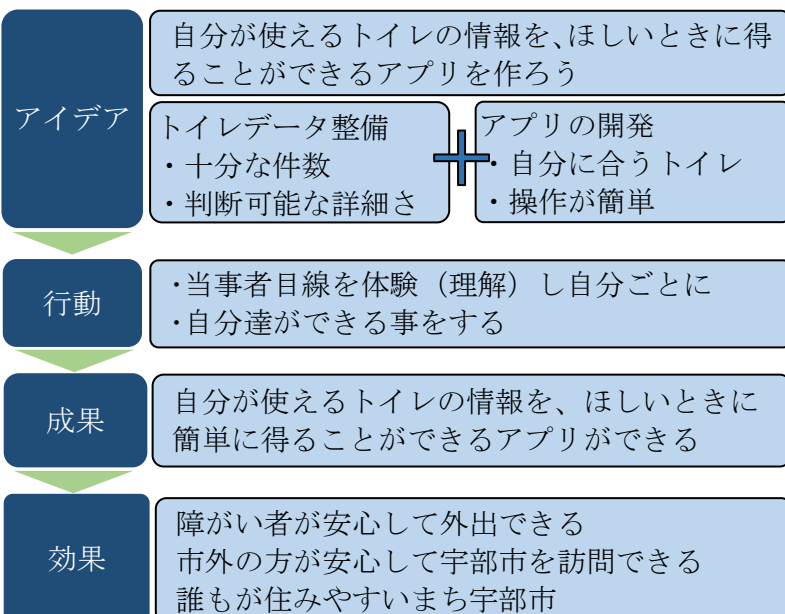


- ・障がい者の外出にトイレは重要
- ・しかし多目的トイレ情報は少ない
- ・使えるか判断できる情報が必要

多目的トイレの「詳細情報」と
情報を「検索する仕組み」が不可欠

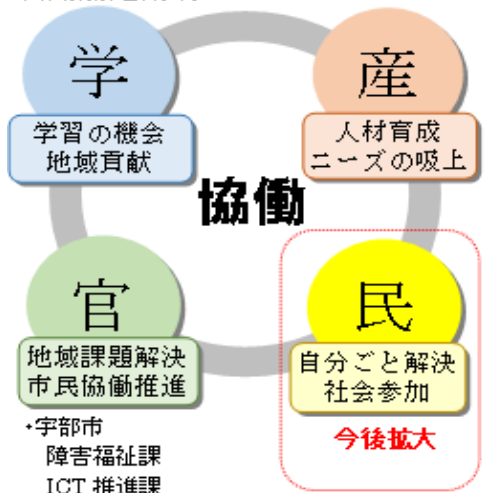
自分が使えるトイレの情報を
ほしいときに得ることができる
アプリを作ろう

●どうやって実現するの？



●誰がするの？

- ・山口大学
- ・宇部フロンティア大学
- ・宇部工業高等専門学校
- ・山口県立大学
- ・山口東京理科大学



共感した「様々な立場の人」が集まり、協働が開始

	参加者	役割
学	山口大学	多目的トイレ発検索アプリの開発
	宇部フロンティア大学	福祉の研究等に基づくアドバイス、トイレデータ収集
	宇部工業高等専門学校	トイレ使用センサー作成(ものづくりプロジェクト授業)
	山口県立大学	写真や映像を活用したワークショップによる意見集約
	山口東京理科大学	GISサークルによるトイレデータ収集
産	リベルタス興産	当事者としてのアドバイス、会場提供
	宇部情報システム	アプリ開発に関する技術的アドバイス
官	障害福祉課	市の障害福祉担当課としての情報提供
	ICT推進課	活動の取りまとめ、公共施設トイレデータの集約

① 体験⇒自分ごと



- ・車いすに乗って体験
- ・課題の本質を知り「自分ごと」へ

② みんなで考える



- ・体験をもとに皆でワークショップ
- ・利用者に必要な情報を検討&整理

③ みんなで行動する（自分ができることをする）

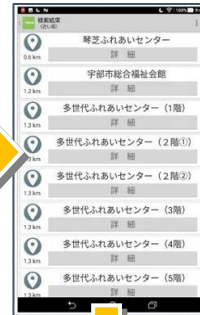
【データの収集 & 公開】



宇部市
オープンデータ
カタログサイト



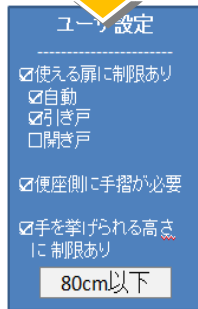
【アプリの開発】



Google Play
(Android)



【トイレ使用センサーの開発】



- <機能>
- ・簡単操作
 - ・詳細情報表示
 - ・使えるトイレ検索
 - ※施策品につき一部未実装

● 今後の課題と目指すところ

課題

- ・継続的なトイレデータの追加更新
- ・民間施設のトイレ情報収集と活用

市民団体・ボランティア・民間企業
市民の協力を得て継続可能な取組

目指すところ

市内バリアフリー情報を整備し活用することで
「誰もが住みやすい、誰もが旅行しやすいまち宇部」へ